

『表現の変遷とその背景を語る』  
講演者：春陽会会員 沓間 宏氏  
(第96回春陽展名古屋展・画談会から)

第96回春陽展名古屋展にあわせて2019年5月25日に東京第一ホテル錦（名古屋市）で画談会が開催されました。

今回は20回目の画談会となり、この記念すべき節目の年に沓間宏氏をお迎えし、講演して頂いたことは大変意義深いものがあります。

沓間氏は「春陽会に軸足を置いて発表を続けてきた一作家として、どのように絵画制作と向き合い、試行錯誤を続けてきたかについて、人との出会いも交えながら、表現の変遷にまつわる背景となった出来事や、そこで考えたことなどについてお話しします」との趣旨で講演されました。

沓間氏は、絵画表現の変遷の時代区分を第一期から第五期に整理して、代表作の画像を使いながら講演されました。

大変充実した内容と、誠実な人柄が滲む語り口に、聴衆は深い感銘を受けました。



講演中の沓間宏氏

第一期（1981～1982）

原点からの出発

若く、何を描いていいかわからない混沌とした中で、まず自分が生まれた処から制作を出発させようと考え、“主観的視点を古典的手法に閉じこめての制作”として、テンペラで描きはじめた。1982年の春陽展に富士山の樹海をイメージした『誘惑の森Ⅱ』を初出品（春陽会賞受賞）した。



誘惑の森Ⅱ（F180）1982年 第59回春陽展

## 第二期 (1983 ~ 1990)

### 古画の様式美に 触発される

奈良・京都の屏風絵や襖絵など日本の障壁画や東洋の古画にある様式美・意匠性が面白いと思い、それらに触発されるとともに西洋の古典絵画にも共感する処があって、テンペラ等を使いながら東西の融合を試みた。また、襖の間から次の間が覗いている発想のインスタレーション的な作品をアクリルで描いた。



群青の瀧 (194 × 291) 1983年 第60回春陽展

## 第三期 (1991 ~ 1999)

### アジア原生林を取材した 亜熱帯シリーズ

ニューヨークと山梨県立美術館で作品を展示した。そこで自分の作品の湿度がはっきり自覚されて、東洋人としての作品を描けるのではないかと考えた。

その発想からボルネオ島（マレーシア）を取材し、原生林のイメージを持ち帰って作品を描き始めた。チェンマイ（タイ）のメーサー溪谷、バリ島（インドネシア）のウブド、グアム島などを取材し、テンペラと油彩の混合技法で制作した。



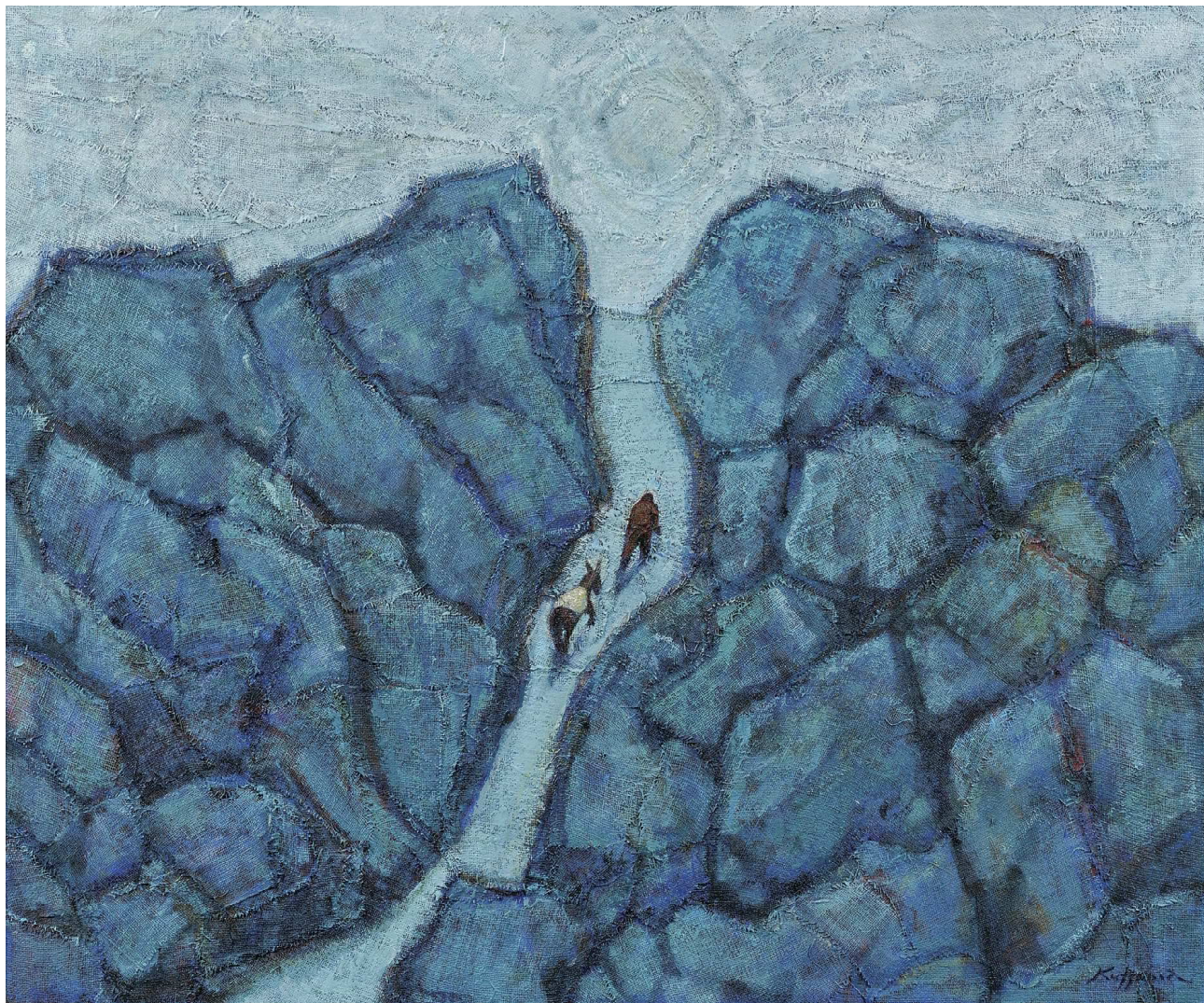
ウブドへの道 (175 × 155) 1994年 第71回春陽展



#### 第四期（2000～2016）

##### 希望を証する“よき知らせ”シリーズ

聖書と出合ったこともあって、自分が感じた事、生活態度、心的態度を作品と一致させたいと考えた。人間としての原点に立ち帰って自身をそこへ投げ入れ、自身と向き合いながら制作した。計画的に積み上げるテンペラの描き方を変えて、わざと描きにくいドンゴロスをついた画布に描いた。



よき知らせ（白夜行） F130 2011年 第88回春陽展

#### 第五期（2017～現在）

##### 解衣盤礴（かいいばんぱく）

ある時、書の作品の中で解衣盤礴という言葉に出合った。“解衣”とは衣を脱ぎ捨てること、“盤礴”は何ものにも拘束されない自由な精神のことで、それを“語るべきものを表現する事から、探り描くことによって語られるべきものを見出す”と解し、もっと自由であっていいと考えた。制作の過程では、当然作品とのヤリトリがある。そこを楽しみながら、行き先が分からない処に自分を置いて、自由に制作してみたいと考えた。現在もその流れで制作している。





解衣盤礴 (F50) 2017年

### 終わりに

私にとって表現の変遷は原点を見詰めたことで成り立つ。私の原点は一つだけではなく、沢山の原点があり何度か回帰をしてきた。ここへ来てもう一度原点に立ち返ってみることは、作品が変わって行くきっかけを考え、若い時にそこに置いてきてしまった何かに気付くのではないかと考えている。

会場の皆様にもそれぞれの原点があると思いますので、原点を探して確認し、向き合いながら今後の制作に取り組まればと思います。春陽会は近く100回展を迎えるが、そこに我々のDNAの原点を見出す事が出来るのではないかと思います。それを大切にしながら、振り返って見るいい機会になるのではないのでしょうか。と講演を締めくくられた。

### 杳間宏氏略歴

- |                          |                            |
|--------------------------|----------------------------|
| 1954 山梨県生まれ              | 1999 同短期大学教授               |
| 1976 東京芸術大学美術学部絵画科油画専攻入学 | 2010 横浜美術大学美術学部教授(2017年退職) |
| 1980 同大学大学院美術研究科入学       | 受賞 春陽会賞、中川一政賞、山梨県立美術館賞     |
| 1982 同大学院(田口安男研究室)修了     | 作品収蔵 山梨県立美術館、チェンマイ国立大学     |
| 1986 女子美術短期大学非常勤講師       | 美術館、青山学院大学、女子美術大学美術館他      |
| 1991 トキワ松学園女子短大造形美術科専任講師 | 現在 春陽会会員、日本美術家連盟会員         |